

Beyond 5G 推進コンソーシアム 企画・戦略委員会
白書分科会(第10回)／ビジョン作業班(第15回)／技術作業班(第11回)
議事要旨

1. 日 時： 2022年1月25日(火) 15:00～18:00

2. 場 所： ウェブ会議 (WebEx)

3. 出席者：

中村主査 (NTT ドコモ)、

ビジョン作業班：小西リーダー (KDDI)、永田サブリーダー (NTT ドコモ)、

技術作業班：中村リーダー (富士通)、下西サブリーダー (NEC)、

WP5D 対応 Ad hoc：菅田主査 (KDDI)、武次副主査 (NEC)、

ほか、通信事業者、メーカ等、計 111 名

(事務局) 総務省移動通信課 新世代移動通信システム推進室

井出室長、杉山官

ARIB 加藤、相原、佐藤 (拓)、三宅、山下

4. 議事要旨

(1) 前回会合(第9回)の議事要旨について

資料1 白書分科会第9回議事要旨について、事前照会が行われており特にコメントなく承認。

(2) 白書作成スケジュール

事務局から資料～について説明。質疑応答は以下のとおり。

中村主査：2/16に国際委員会が開催される予定であり、白書分科会として国際委員会へのインプットも必要と考える。当日対応は調整するが、スケジュール表に反映して欲しい。

小西リーダー：1/17 企画戦略委員会で使用の資料は11月の国際カンファレンス時の内容と同じにつき、2/16 資料はアップデートが必要。

中村主査：可能な範囲で対応いただきたい。

5章追記等どこまで盛り込めるか両作業班にて検討する事とした。

(3) 白書リリースイベントについて

事務局から資料～について説明。

パネルセッションのモデレータについては両作業班にて検討する事とした。

(4) ビジョン作業班（第15回）について

小西リーダーから、資料4 ビジョン作業班資料について説明。質疑応答は以下のとおり。

永田サブリーダー：CTC 担当部分については、1/28 に間に合う見込み。

小西リーダー：エディターズ会議では、特に5.1 節を議論し、作成に向けた作業に着手する。特徴的なユースケース、求められる性能が重要。

中村主査：白書リリースイベントは、非常にワクワクするイベントとなりそうで非常に楽しみだが、パネルディスカッションでは、通信業界と各業界でどうすれば議論を深められるか、うまく連携できるのか、という可能性も取り扱って欲しい。

小西リーダー：承知した。

中村主査：白書リリースイベントは、完全にオープンなイベントか？できるだけ多くの方にお聞きいただきたいが、ワークショップにお呼びした方も本イベントにお呼びするか？

小西リーダー：そのとおり。

中村主査：お呼びするのに、効率的な方法など、事務局、総務省、リーダー陣で、検討しましょう。

小西リーダー：白書リリースイベントは、オンラインかハイブリッドで実施したい。

事務局：総務省と調整の上、1 月末までに確定する。

(5) 技術作業班（第11回）について

中村リーダーから、資料05-1,2 技術作業班資料について説明。質疑応答は以下のとおり。

ドコモ須山氏：技術作業班の英文原稿には濃淡がある。白書0.5 版への反映は難しいが、KPI と整合性はとりたい。

中村リーダー：KPI については、下西サブリーダーに意見を聞きたい。ビジョン班からも意見を聞きたい。少し柔軟性を残しておきたい。

下西サブリーダー：ここで書いた KPI が、目指す価値あるか、技術的に可能か、社会動向からみてどうかをチェックしたい。

ドコモ須山氏：できれば編集会議みたいなものを開いて整合できるとよい。進め方は相談させて欲しい。

中村リーダー：現状を確認して、編集会議にするか分科会のアドホックにするか決めたい。

ARIB 三宅氏：用語集は、先ほどの略語集と一緒に白書の最後に載せる想定か。

中村リーダー：用語集は白書にマージしないつもり。表現を合わせるためのツールと考えている。

ARIB 三宅氏：キーワードリストも表現を合わせるためのツール。白書に載せるかどうか

は終盤に決めたい。

ARIB 三宅氏：参考文献は日本語版のままか、それとも英語版に置き換えるか。

中村リーダー：英語版があるものは載せた方が良いが、必須ではなく、個別に対応すればよいと考えている。全体バランスの中で決めるのが良いと思う。

ARIB 加藤氏：英文原稿 11 個のファイルはマージされるか。

中村リーダー：英文原稿は、マージしないで 11 個のファイルの単位で作業を進めて行く。

細かい部分は作業を進めて行く中で相談させて欲しい。

永田サブリーダー：遅延の KPI について、e2e で 0.1ms は他国と比較しても厳しすぎるため 1ms で良いのではないか。

中村主査：確かに e2e で 0.1ms は厳し過ぎるので 1ms 以下で良いのではないか。

中村リーダー：ご提案いただいた数値をベースに両作業班で持ち帰り検討する。

下西サブリーダー：どこを測っての値かを含めて整理する。アプリケーションのニーズを含めて情報をいただきたい。

菅田主査：株式などで、コンピュータが処理する際の必要条件など、技術的に積み上げた値を整理できるとよい。

下西サブリーダー：どこの部分かという事と根拠を明確にして整理する。

中村リーダー：5.2 章 KPI の図のどこの部分かを明確にする。

華為朱氏：e2e はどの層か、アプリ層なのか、また“レスポンス”という言葉等の定義を明確にしていきたい。

中村リーダー：継続議論する。

(6) WP5D 対応 Ad hoc について

武次副主査から資料 6-1 WP5D 対応 Ad hoc (FTT)、菅田主査から資料 6-2~4 WP5D 対応 Ad hoc (vision) について説明。質疑応答は以下のとおり。

中村リーダーより感謝が述べられ、白書 1.0 版の時点で公表できる伝搬測定結果については 6 月の WP 5D 会合への入力できるよう議論させてほしいと述べられた。(ビジョン関係)

永田サブリーダーより、今回作成された寄与文書案について白書のエディターが確認できていない可能性があるため、改めて、本日のエディターズ会議で周知すると述べられた。また、今後の WP 5D 会合への入力の頻度等について確認がなされた。

菅田主査より、今回の寄与文書が 2 月の会合でどのように扱われるかによるが、少なくとも 6 月の会合での内容の改訂は可能と想定しているとの回答がなされた。また、6 月の会合以降は、議論が KPI 等へ移る可能性があるが、ユースケースとしては残ると想定され、引き続き更新していくことは有用であると述べた。

中村主査より、資料 6-4 は白書完成ののち他団体とのギャップ分析をするのに有用であり、分析結果から白書の修正・追加を考えることは必要であるとコメントがなさ

れた。

(7) 今後のスケジュールについて

事務局から資料7今後のスケジュールについて説明。中村主査より下記コメントがあった。

2/16 国際委員会を織り込むこと。また、白書発表後後の白書分科会の活動プランにつき、次の幹部会で検討の上、次回分科会に諮る。

次回会合は2月22日（火）15：00から開催予定。

以上